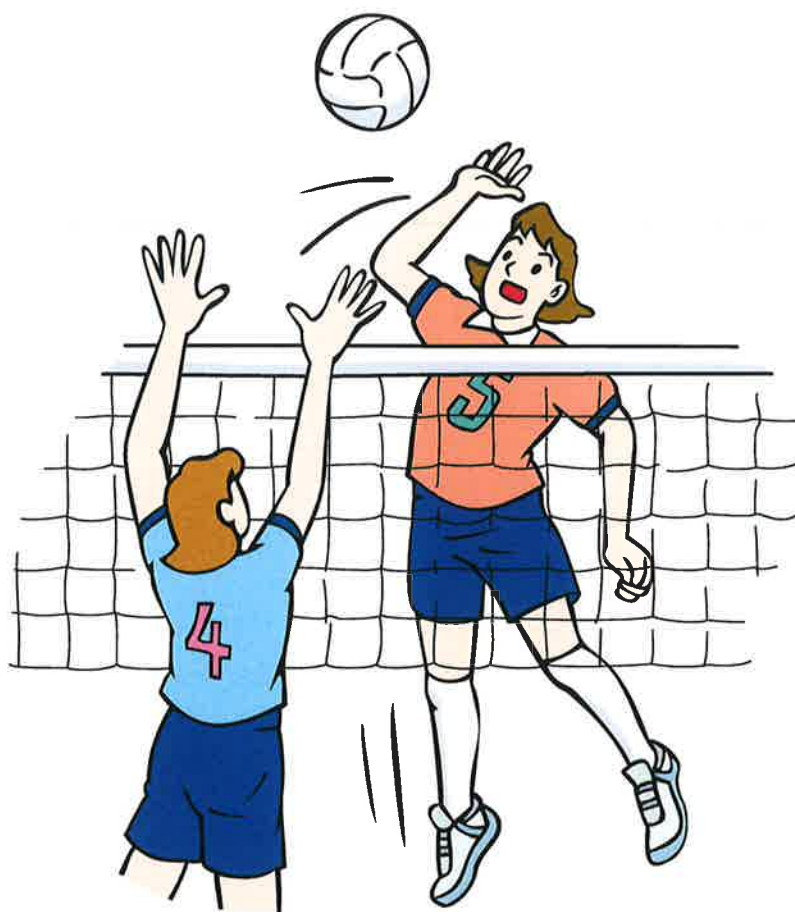


長崎県小学生バレーボール連盟  
令和5年度小学生バレーボール審判講習会

資 料



# 小学生バレーボール競技規則

## 競技の特性

本競技規則は、6人制バレーボール国際競技規則に準拠するが、リベロ（規則19）は適用しない。また、次のような特性を持っている。

選手は、フロントやバックなどの位置による一切の制限を受けずに、自由に動いてプレーすることができる。

ボールをプレーするときは、ボールが身体の数箇所に連続して接触しても、それが1つの動作中に生じたものであれば許される。

サービスは、それぞれのセットの初めに、チームごとに決められた順序に従って打ち、サービス権が移行しても、位置のローテーションはしなくてもよい。

## 第1条 施設と用具

- コートは16m×8mの長方形で、センターラインの中心により、8×8mのコートに2等分される。アタックラインの後端がセンターラインの中心から2.7mとなるように引く。サービスゾーンはエンドラインの後方に位置する8mの幅を持つ区域である。
- ネットの高さは2.00mとする。
- ボールは、円周62～64cm、重量200～220gの規格のものを用いる。

（注）

- 小学生バレーボール競技規則ではバックプレーヤーのアタックヒットの反則はないが、下記の理由により、アタックラインは省略しないで引き、フロントゾーンとバックゾーンを区画する必要がある。
  - 選手交代ゾーンを区画するため。（競技規則1.4.3）
  - アタックヒットでの制限（競技規則13.2.4）  
相手チームのサービスしたボールがネット上端よりも完全に高くフロントゾーン内にあるときはいかなる選手もアタックヒットを完了することは許されない。
  - アタックヒットの反則（競技規則13.3.4）  
相手チームのサービスしたボールがネット上端よりも完全に高くフロントゾーン内にあるときに、選手がアタックヒットを完了したとき。

## 第2条 選手の番号

番号は、胸部が最小限10cm、背部が最小限15cmの高さのものを用いる。

（注）

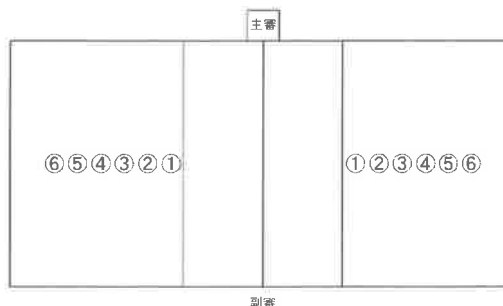
- ユニフォーム（ジャージ（シャツ））には、選手番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければならない。ルール上の問題がなくても、識別が困難な色は避けるべきである。
- 枠（縁取り）のみの番号は、認められない。

### 第3条 チームのスターティングラインアップ

- 1 監督は、各セットの開始前に、サービス順とスターティングラインアップを記入したラインアップシートに署名し、セカンドレフェリーまたはスコアラーに提出する。
- 2 サービス順は、選手的位置に関係なく決めることができるが、そのセットを通して変更することはできない。
- 3 交代選手のサービス順は、被交代選手の順位とする。

(注)

- 1 セット開始時、セカンドレフェリーはスターティングラインアップの選手をアタックラインの中央からエンドラインに向かって垂直に、記録席側を向かせてサービス順に整列させる。



### 第4条 試合の進行

- 1 試合は、サービス権を得たチームの最初のサーバーによって開始される。
- 2 サーバーによってボールが打たれた瞬間には、サーバーを除く両チームの選手は、それぞれのコート内にいなければならない。
- 3 レシービングチームがラリーに勝ち、サービス権を得た場合は、サービス順に従い、サービスを行う。
- 4 サービス順の誤りは反則となり、その間違いは直ちに訂正される。
- 5 監督は、ラリー中、ベンチに座っていなければならない。
- 6 選手の健康と安全に配慮し、テクニカルタイムアウトを用いる。第1セットおよび第2セットでは、リードするチームが11点目に達したとき、第3セットでは、リードするチームが8点目に達したときは、30秒間のテクニカルタイムアウトが自動的に適用される。
- 7 第3セットでは、リードするチームが8点に達したときは、チームは直ちにコートチェンジをする。

(注)

- 1 ルールブックに明記されていないが、小学生バレーボール競技規則の取り扱いとして、小学生の試合ではサービス順の誤りが起こらないようにしている。  
本来のサーバーではない選手がサービスを打つ準備をしているときは、スコアラーからセカンドレフェリーを通じてサーバーの順番が誤っていることをチームに知らせ正しい順番のサーバーに訂正してサービスを打たせる。ただし、この手続きは誤ったサーバーがサービスを打つ前にしか適用されない。実際にサービスを打ってしまった場合は、6人制競技規則と同様に、サービスの反則となる。サービスを打たせるところからやり直させることはない。
- 2 監督がコートもしくはウォームアップエリアに近づく主たる目的は、選手に対して必要な指示を与えるためであり、みだりに監督が立ち上がりたりする行為を許容するものではない。過度に目的から逸脱した行為に対しては、競技規則(21 不法な行為とその罰則)によって制裁が科される。監督を含めチーム役員が自然発生的に喜びを表す表現として偶発的に立ち上がりたりする行為は許容範囲である。しかし監督以外のチーム役員や選手が毎回のように立ち上がりたり、あるいはベンチから数歩前に出たりする行為はルール違反である。また、監督がコート上の選手とハイタッチをしたり、跳んだり跳ねたり、相手を威嚇したりする行為などもルール違反となる。
- 3 第3セットのテクニカルタイムアウトは、コートチェンジでファーストレフェリー側の支柱外側を回ってきたチームの最後尾の選手がセカンドレフェリー側のサイドラインを通過した時点から30秒を計時する。

## 第5条 得点を得て、セット・試合に勝つこと

- 1 セットは（第3セットを除き）、最低2点をリードし、先に21点を得たチームが取る。20-20の同点になった場合は、（22-20、23-21のように）2点のリードが得られるまでプレーは続く。  
セットカウントが1-1のタイになった場合には、第3セットは、最低2点をリードし、15点になるまで続けられる。
- 2 試合は、2セットを取ったチームがその試合の勝者となる。

（注）

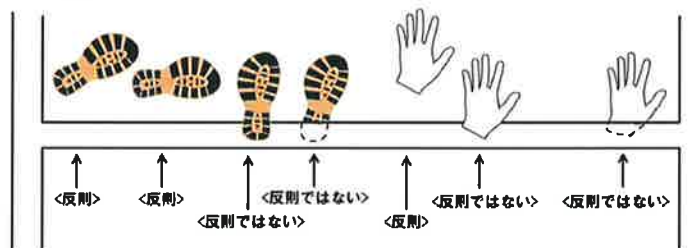
- 1 第3セットは、14-14の同点になった場合は、（17-15、18-16のように）2点のリードが得られるまでプレーは続く。

## 第6条 ネット付近の選手

片方の足（両足）または片方の手（両手）がセンターラインを超えて相手コートに触れても、侵入している片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる身体の部分も相手コートに触れることは許されない。

（注）

- 1 この場合の「足」はくるぶしより先、「手」は手首より先をひとつのかたまりと見なして、その一部分でもセンターライン上（触れていなくてもよい）に残っていれば反則とならない。（相手コート側）



※点線はラインに触れていないことを示し、センターライン上の空間にある。

- 2 相手コートに触れていなければ相手コート側空間に出ているだけでも反則にならないが、相手選手に触れるなど相手のプレーを妨害したと見なした場合は、インターフェアの反則を適用する。

## 第7条 選手交代の制限

各チームは、1セットにつき12回までの選手交代が認められる。

（注）

- 1 セカンドレフェリーは記録を確認し、11回目と12回目の選手交代をファーストレフェリーおよび監督に通告する。
- 2 選手交代の手続きは、一般の試合と同様の取り扱いで行われる。ただし、小学生の特性なども考慮し、レフェリーはチームの意向になるべく沿うようにする。（選手が誰と交代するのか理解していない場合はセカンドレフェリーが監督に尋ねたり選手交代ゾーンの手前で選手が立ち止まったらゾーンに入るように促したりするなど）

## 第8条 記録の方法

試合は、スコアシート記入法によって記録されるが、それぞれのセットのレシーブチームも、スコアシートの「サービスのチェック欄」は、ローマ数字のIの1欄から記入される。

小学生バレーボール競技規則における  
テクニカルタイムアウトの取り扱いについて

- ① 日本小学生バレーボール連盟及び各都道府県小学生連盟の関わる（主催、共催、主管等）小学生のバレーボール大会において、「テクニカルタイムアウト（以下TTO）」は、選手及びスタッフ（小学生）の健康管理のためのタイムアウトである。
- ② TTOが開始されたら、選手はベンチの外側の端に位置する（この時選手はベンチに着席してもよい）。ベンチスタッフ（大人）は選手の健康観察を行い、不調が疑われる選手には直ちに対応する。  
※小学生の発達段階の特性として、自身の体調の変化に気付きにくいことや、体調が悪くなっても自分から言い出すことが難しいことなどが考えられる。そのため、ベンチスタッフ（大人）が積極的に選手の健康管理に気を配る必要がある。  
※レフェリーは必要に応じて選手の体調についてベンチスタッフ（大人）に質問することができ、不調が疑われる選手への対応を指示することができる。レフェリーから選手の体調について質問があった場合は、正確に回答できるように準備しておく。
- ③ ベンチスタッフ（大人）は、選手及びスタッフ（小学生）全員が給水できるように準備をする。  
※給水の準備が必要な期間はWBGTなどの諸条件を考慮し、大会本部が決定してもよいものとする。また、給水の準備は必須であるが、給水を行うか否かの判断は選手本人の意思による。  
※ベンチにいる選手に給水やタオル等の準備を手伝わせてもよいが、これらの選手も給水できる状態にしなければならない。
- ④ ベンチスタッフ（大人）が選手に話しかけるときは、ベンチスタッフ自身が規定の位置に移動する。
- ⑤ TTO中は、ベンチスタッフ（大人）がフロアモッピングを行うことができる。

# ユニフォーム作製にあたって

日本小学生バレーボール連盟

はじめに

公益財団法人日本バレーボール協会（以下 JVA）主催の大会に参加するチームは JVA が定めるユニフォーム規定及び日本小学生バレーボール連盟のユニフォームに関する基本的な考え方を遵守しなければなりません。各チームがその内容を熟知した上でユニフォームを作製できるように本文書を作成いたしました。

## 1. ユニフォーム規程について

資料「公益財団法人 日本バレーボール協会 競技要項 P68～70」参照

特に、以下の点について再確認をし、規定に合わないユニフォームは、大会（JVA 主催大会）に向けて手直しか再作製をする必要があります。

### 3. 選手番号

- (1)ユニフォーム（ジャージ（シャツ））には、選手番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければならない。

（例）



### 5. チームネーム

- (1)ジャージ（シャツ）の胸部もしくは背部に、JVA-MRS に届け出たチームネームまたはそれを特定できる略称のいずれかを付けなければならない。サイズは規定しない。また、チームのシンボルマーク（社章・校章・略号）も付けてもよい。
- (2)ジャージ（シャツ）の袖に（袖が無い場合には背面襟下に）所属する都道府県名を付けてもよい。なお、都道府県名の大きさはチーム名よりも小さいこと（高さが低いこと）。

番号が明確に表示されていない例



番号が枠だけ



柄と番号が同化している





地の色と対照的ではない



銀色で光って見えづらい

## 2. ウェア・シューズ・サポーター公認制度について

毎年度ごと、JVA 公認企業ロゴ一覧が示されますので、ご確認ください。

## 3. 日本小学生バレーボール連盟としての基本的な考え

### (1) ユニフォームのデザインについて

ノースリーブのユニフォームに関して、肌の露出部分を多くすることで擦り傷等のけがや盗撮のリスクがあることから着用は好ましくない。

許容されるデザイン（フレンチリーブ、キャプスリーブ）



### (2) シャツのインとアウトについて

見た目も良くなく、パフォーマンスにも影響することが予想されることや肌の露出の点で怪我や盗撮のリスクもあることから**シャツを入れるよう指導する**。

ただし、夏の大会で空調設備のない会場で開催する場合や会場内の熱中症指数が上がっている場合など、状況によってはシャツを出して着用することを認める。その判断は、各大会ごと主催（主管）者によって行い、大会要項または代表者会議にて示す。

ベンチスタッフについては、選手と同様にシャツを入れるのが好ましいが、チームの判断に委ね、指導はしない。

I-5 国内競技大会参加チームのユニフォームについて  
ユニフォーム規程

2019年3月  
国内競技委員会

1. 目的

- (1) 公益財団法人日本バレーボール協会(以下 JVA)が主催する国内競技大会に参加するチームのユニフォームや役員の服装についてその詳細を定めることを目的とする。
- (2) Vリーグ参加チームのユニフォームについては別に定める。また、JVA と他の団体が共催する大会で別に定められた規程がある場合は、その規程に従う。

2. ユニフォーム

(1) ユニホーム

- ① ユニフォームとは、ジャージ(シャツ)、ショーツを指す。6人制においてはソックスもユニホームに含まれる。
- ② ユニフォームは配色やデザインが統一されていなければならない。(リベロプレーヤーを除く)
- ③ チームは、カラーの異なった2種類のユニフォーム(ジャージ(シャツ)・ショーツ)を用意することが望ましい。
- ④ ユニフォームのメインカラー(主たる色)は、概ね2/3以上を占めていることとする。
- ⑤ リベロプレーヤーはチームの他の競技者とはっきりと区別できる対照的な色のユニフォーム(少なくともジャージ(シャツ)だけは)を着用しなければならない。(明瞭に区別できる色・デザインであること。)

(2) ジャージ(シャツ)・ショーツ

- ① ジャージ(シャツ)およびショーツは色、デザインが統一されていること。
- ② ジャージ(シャツ)は半袖、長袖、ノースリーブが混在していてもよい。

(3) ソックス

- ① 色および長さが統一していること。

3. 選手番号

- (1) ユニフォーム(ジャージ(シャツ))には、選手番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければならない。
- (2) 選手番号は6人制においては1～20番、9人制においては1～18番までとする。ただし、やむを得ない場合は1～99番まで認める。
- (3) 選手番号のサイズは、次の通りとする。

6・9人制とも	高校生以上		小・中学生	
	高さ	字幅	高さ	字幅
①シャツ胸部・中央	15cm以上	2cm以上	10cm以上	2cm以上
②シャツ背部・中央	20cm以上		15cm以上	

- (4) ショーツ前面下に、高さ4～6cm、字幅1cm以上の選手番号を付けてもよいが、全員がそろっていないなければならない。

4. チームキャプテン

- (1) チームキャプテンは、胸のナンバーの下に、長さ8cm、幅2cmのマークを、ジャージ(シャツ)と異なった色で付けていなければならない。

5. チームネーム

- (1) ジャージ(シャツ)の胸部もしくは背部に、JVA-MRSに届け出たチームネームまたはそれを特定できる略称のいずれかを付けなければならない。サイズは規定しない。また、チームのシンボルマーク(社章・校章・略号)も付けてもよい。
- (2) ジャージ(シャツ)の袖に(袖が無い場合には背面襟下に)所属する都道府県名を付けてもよい。なお、都道府県名の大きさはチーム名よりも小さいこと。(高さが低いこと)



## 6. 選手名 ※小学生連盟では付けない

(1) ジャージ(シャツ)背部の上部中央に、着用する選手の選手名または通称を表示してもよい。(選手名の表示を認めていない種別を除く)

- ① 選手名を表示する場合、出場する選手全員が表示することら
- ② 選手名のサイズは、高さ 6 ～ 8cm とする。
- ③ 文字は、アルファベット横書きにより哀話するものとする。
- ④ 表記は直線状または、肩の曲線に合わせたゆるやかな曲線状とする。

## 7. マニファクチャーロゴ

(1) ユニフォームには、JVA が公認しているメーカーに限り、最大 5 × 4cm または 20 cm<sup>2</sup> のマニファクチャーロゴをジャージ(シャツ)・ショーツにそれぞれ一箇所だけ付けることが許される。(ソックスは、左右各々の、内側と外側に付けてもよい)

## 8. スポンサーロゴ及びユニフォーム広告 ※小学生連盟では付けない

- (1) ユニフォームにチームスポンサー名または商品名・商標・ロゴマーク及びユニフォーム広告を付けることができる。ただし、別途定める「ユニフォーム広告に関する規程」に従うこととする。
- (2) 試合会場(体育館等)の規程により、広告掲載料が発生した場合は、当該チームがその実費を支払うものとする。

## 9. その他

(1) ユニフォームには、上語 3 ～ 8 以外のものの表示認められない。

## 10. トレーニングウェア

- (1) トレーニングウェアは全員が統一されていることが望ましい。
- (2) トレーニングウェアにはチームネーム、選手名、選手番号を付けることができる。
- (3) トレーニングウェアには最大 5 × 4cm または 20 cm<sup>2</sup> のマニファクチャーロゴを付けることができる。
- (4) スポンサー広告については、上記 8 と同様な扱いとする。

### 11. アンダーウェア等について

- (1) アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首等からはみ出してはならない。ただし、プレーの動作によってユニフォームの下から見えてしまうことは故意に見せるものでない限り制限されない。
- (2) 医療を目的としたサポーター類は、プレー上危険がある場合や、プレーに有利に働く場合を除いて、規制されない。
- (3) 明らかに色が違う腰に帯状にまくサポーター、コルセット類はユニフォームの下に着用しなければならない。

### 12. ペンチスタッフの服装

- (1) ペンチスタッフはジャケットを着用するか、スタッフで統一された服装でなければならない。
- (2) 部長や監督がジャケットを着用し、その他のスタッフが統一された服装であれば許可される。
- (3) 統一された服装であっても、タンクトップのような形状のシャツ類、短パン、ハーフパンツは許可されない。
- (4) ペンチスタッフの着用する服装には最大 5 × 4cm または 20 cm<sup>2</sup> のマニファクチャーロゴを付けることができる。
- (5) スポンサー広告については、上記 8 と同様な扱いとする。

以上

この規程は 2019 年 3 月 31 日より実施する。